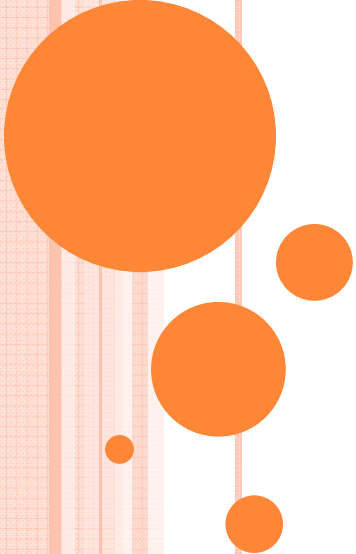




技術進歩

鈴木 麻友美

日本は生産性が低い！？

日本の労働生産性は決して高くない。

高い就業率 + 低い労働生産性



諸外国並みのGDP

日米の労働生産性の格差の原因

- ・規制や労働市場の柔軟性の違い
- ・取引慣行や流通システムの違い



規制緩和

- 政府の規制を縮小することで市場競争を促進し、経済活性化を果たすために採用される。

規制が少ない: 製造業

規制が多い: 運輸、通信、金融、建設、卸小売業

今までは...

すべての人々に仕事を与えることが正しいこと。

これからは...

規制によって雇用を守る余裕はない。



内外価格差と日本の物価

- 日本の物価が諸外国の物価に比べて高いという問題

原因: 非貿易財産業の生産性上昇率が貿易財産業の生産性上昇率より低いという生産性格差。

- 日本の物価が割高であるのは間違いない

原因: 非貿易財産業に関する各種の規制や取引慣行の存在

⇒ 市場への新規参入や企業間の競争を阻害して非貿易財産業の非効率性や低生産性をもたらす。



規制産業と官製市場

規制産業: 政府部門の周辺の様々な企業的活動

官製市場: 運営主体の制限を行うなど公的関与の強い
市場およびサービス分野。

 効率が低い

市場テストとは・・・

政府が独占してきた公共サービスについて、政府と民間が対等な立場で参加して、価格・質の両面で最も優れた者が、そのサービスの担い手となる制度。

民間にゆだねる = 規制緩和、雇用や資本の再分配



生産性の低い産業を縮小しよう

生産性の低い産業を縮小することも生産性を上昇させる有効な手段。

縮小する  輸入品に代替する
(例) 食料や繊維

⇒ 海外の工場での労働を輸入
労働力不足を補うための最もコストの低い方法


外国人労働力導入とは異なる
⇒ 文化的障壁を問題としない



公共投資

日本は一般政府の公共投資がGDPに占める比率が高い

一応の社会資本ストック建設はすんでいる

近年建設されているのはハコモノ(ex.博物館)

⇒ 政府ではなく民間でも建てられる ← 規制緩和

☆人々は社会資本が有効に使われている地域に集まる

← 社会資本のコストが安く、暮らしと仕事に便利

必要に応じてではなく、地域の仕事をつくる目的で
公共投資がされてきた・・・

⇒ 効率的な公共投資の配分が必要



生産性の低い働き方を見直そう

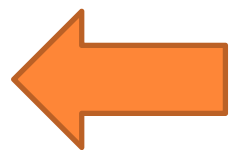
労働力率は90年代後半以降大きく**低下**

※65歳以上での低下による分が大きく、自営業の廃業によるところが大きい。

自営業が産みだす付加価値 < 雇用者が産みだす付加価値

*非雇用者比率と経済全体の生産性水準の関係

非雇用者比率が**低い**ほど生産性が**高い**

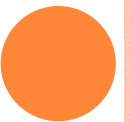


自営業者の生産性が低い

*すでにあるものをより効率的に使うこと (ex. 空き家)



研究開発の重要性



技術進歩

酒井 若葉

リーディング課題

加藤久和

『人口経済学』「第5章人口変動とマクロ経済」

pp.137-144

技術進歩の測定

$$Y = AK^a N^{1-a}$$

⇔GDP

＝(技術水準)(資本ストック)^(資本分配率)(就業者数)^(1-資本分配率)

～時間で微分～

$$\Delta Y/Y = \Delta A/A + a\Delta K/K + (1-a)\Delta N/N$$

経済成長率

＝技術進歩の上昇率＋資本分配率×資本ストック増加率
＋労働分配率×就業者増加率



- 経済成長率3%, 労働力は一定, 資本ストック4%,
資本分配率25%とすると技術進歩率はいくらか？

経済成長率

＝技術進歩の上昇率＋資本分配率×資本ストック増加率
＋労働分配率×就業者増加率

$$\Leftrightarrow 3\% = X + 25\% \times 4\% + (75\%) \times 0\%$$

$$3\% = X + 1\% + 0\%$$

$$X = 2\% \quad \therefore \text{技術進歩率は2\%}$$



技術進歩と人口

1. クズネッツ、サイモン

- 人口の総数が多いほどその中から優れたイノベーターが生まれる可能性が高くなる
 - 相互の知的交流の機会も増える
- ⇒ 技術進歩が促される

2. クレマー

- 1.を理論化、戦後の先進国における技術進歩の速度低下を人口増加速度の低下と関連させて説明
- 人口総数の増加によって同じような技術開発が重複して行われ、かえって技術進歩の効率性が低下する可能性

3. アギオン、ホーイット

- 研究開発の成果は市場の規模が大きいほど多くなる



技術進歩と人口や労働力の関係

①規模の経済喪失効果(－)

労働力人口の増加率↓集団的な力↓

②創造性喪失効果(－)

労働力人口・若年労働力↓創造性・積極性↓

③労働節約促進効果(+)

人口・労働力↓労働力以外の生産要素↑

①＋②<③であれば経済成長が可能！



THE WORK FORCE AGING

Yuhei Ishida







Throughout Developed World In 1980s

62 (50~64歳)

100 (15~29歳)

Throughout Developed World In 2005

94 (50~64歳)

100 (15~29歳)

Throughout Developed World By 2030

112 (50~64歳)

100 (15~29歳)

In low-fertility countries(Germany)
By 2030

144 (50~64歳)

100 (15~29歳)

In low-fertility countries(Japan)
By 2030

165 (50~64歳)

100 (15~29歳)

If the age of youth entry into the labor force continues to rise, the younger-worker brackets will shrink even faster.

Why!?

Economic Characteristics of Many Younger Workers



High rates of
job mobility

- Labor markets can adjust more easily
- Industries can expand or shrink more rapidly
- Unemployment tends to be shorter term

1.Explain how those happen.

Economic Characteristics as The Workforce Grays



Decision Maker

DVD
VIDEO

Conservative

巨人星

特別篇

父一徹

1



No Innovation



New Entrepreneur

~35歳

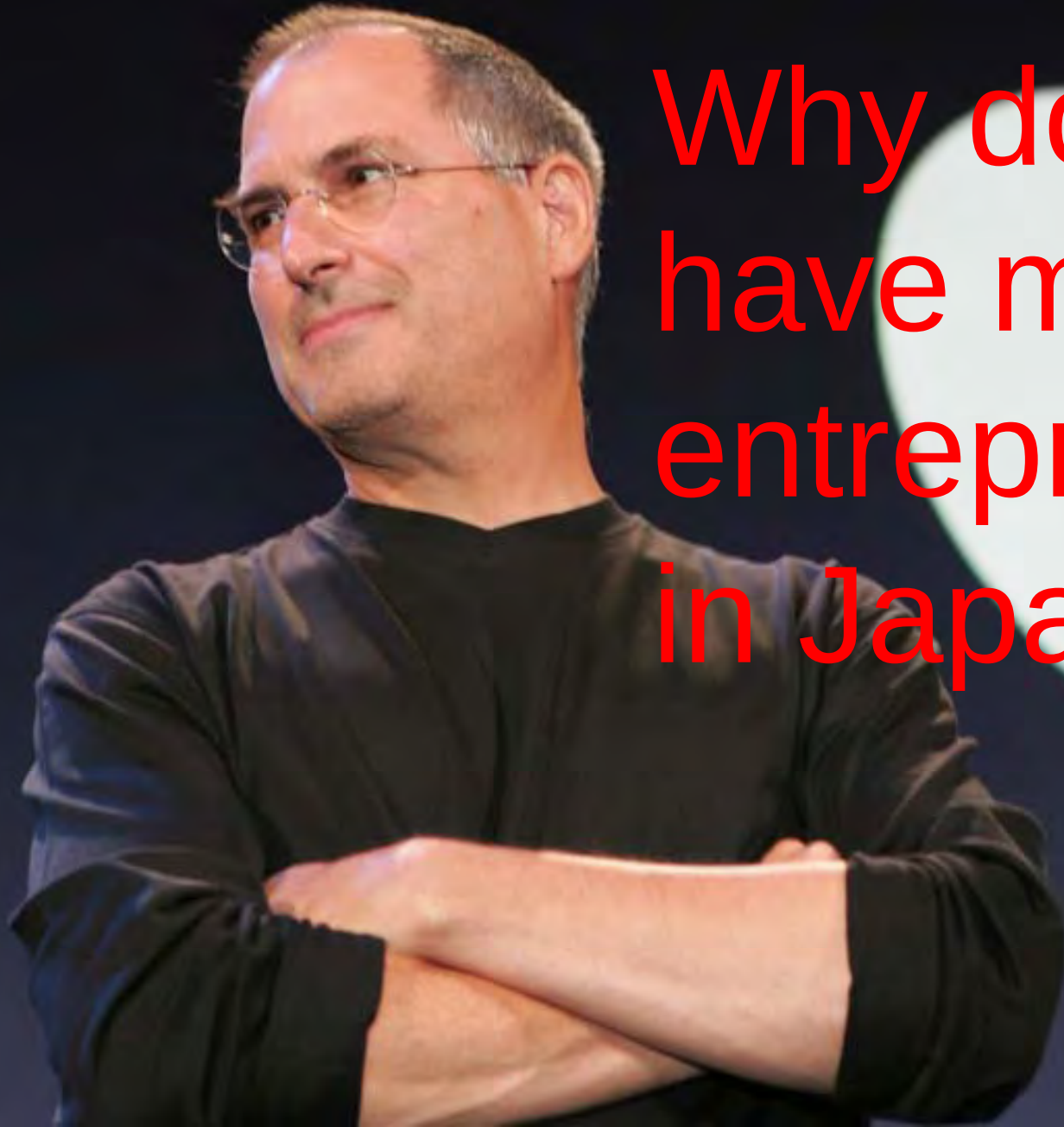
40%

35~45歳

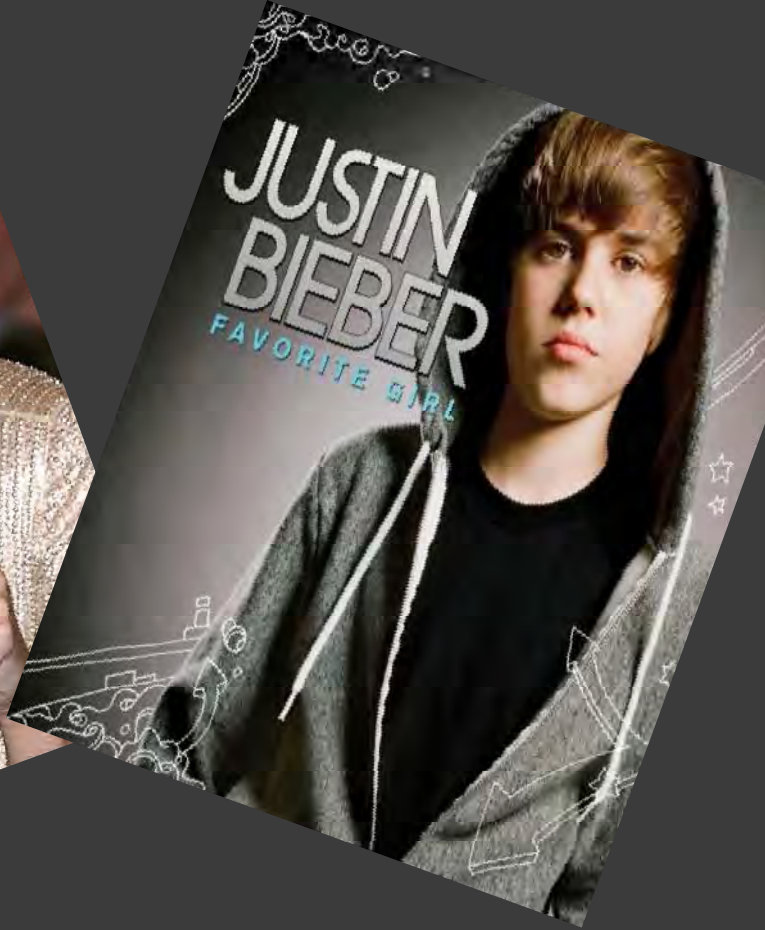
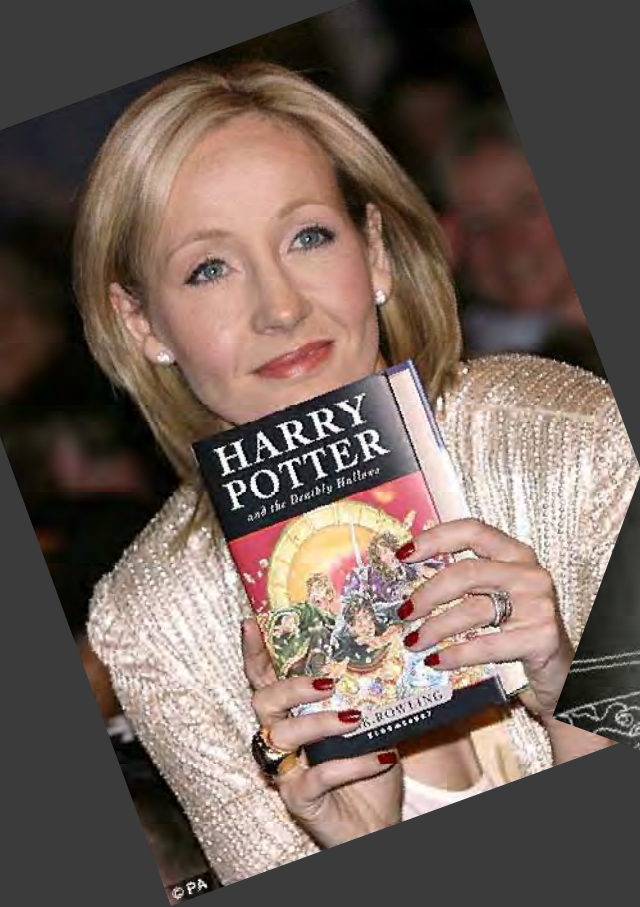
30%

55歳~

9%



Why don't we
have many
entrepreneurs
in Japan?



20~45歳

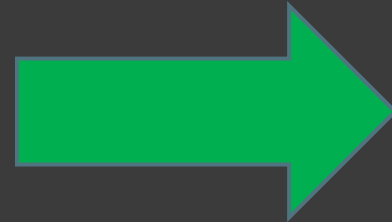
Creative
Productive

When we get old...

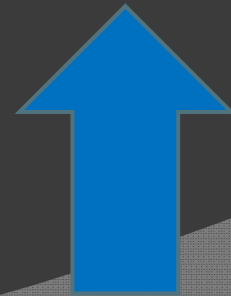
Fluid abilities



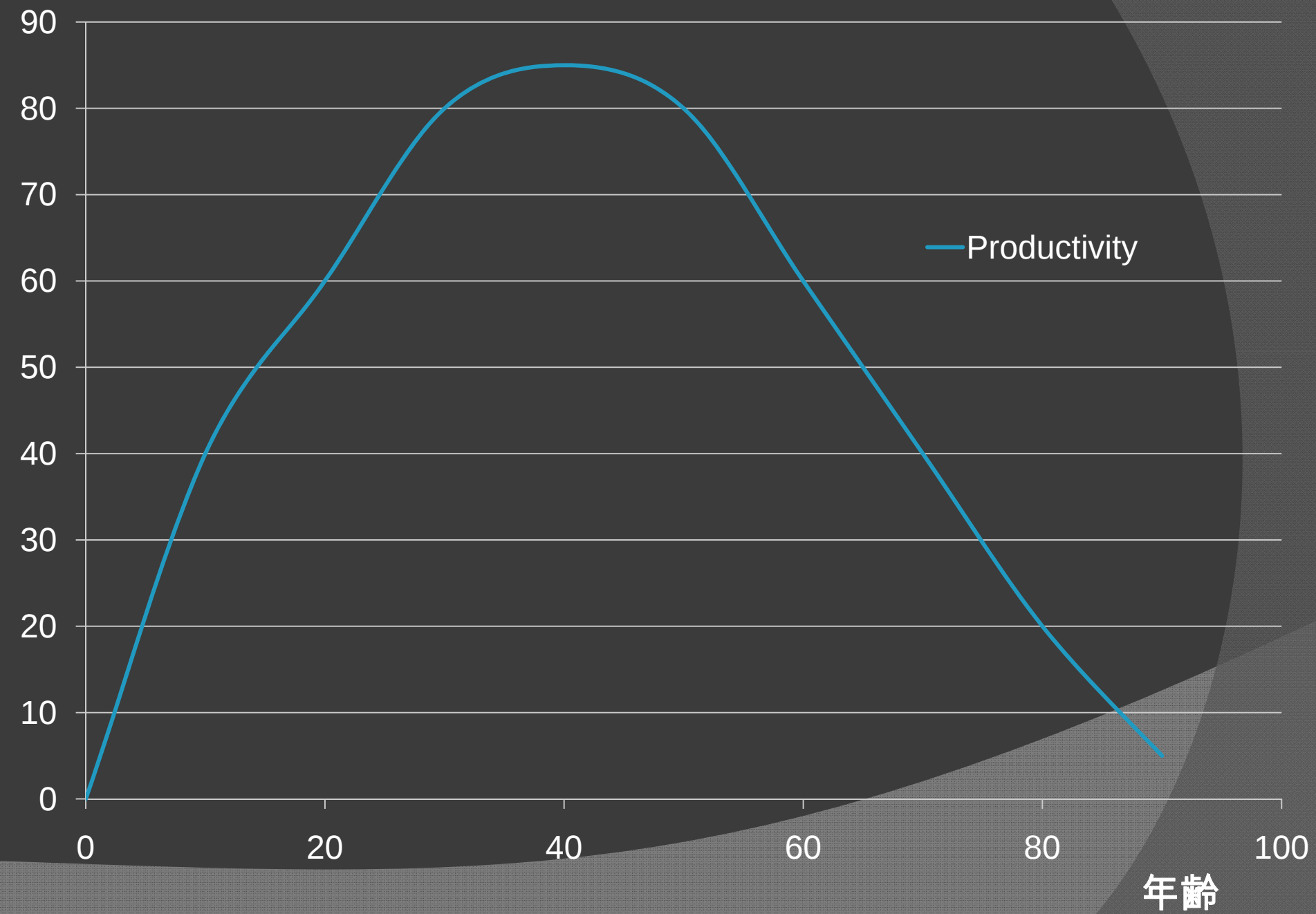
Crystallized abilities



Experiences.etc



生産性



Productive
in a
different
way



Good in
a stable
market
environ
ments

A rapid technological change

